

「障害者が安心して暮らせる社会」づくりが必要

る社会をつくろう」と吹田では長年、障害者福祉を充実させる運動をしてきましたが、実態はまだまだ。鈴木さんはそうした運動の草分け的存在です。

さつき福祉会は4カ所の障害者共同作業所に280名

鈴木 1975年から障害者運動に取り組んできていますので、もう31年になります。「さつき福祉会」という市内4カ所の障害者作業所の開設に関わり、今では約280名の障害者が通所する施設に成長しました。主に知的障害、身体障害者の福祉施設です。

しかしこれからは養護学校を卒業する障害者が毎年30〜40人の中には学校は出たけれど就職できない方が多く含まれています。その上に中途障害者の増加。



「予算がないから」と社会福祉を削って良いのだろうか…

脳卒中や心臓疾患などで、障害を持ち、仕事を失った人々がおられる。中途障害者にせよ、知的障害者や身体障害者にせよ、まだまだこれから出てくる障害者にとって通所施設の定員が足りないというのが実態です。

さらに精神障害者については、約1000人が手帳を持っているのに作業所に通っておられる方は、200人に過ぎないのが実態です。

現在のストレス社会で精神障害者が増えている

小川 現在のストレス社会の影響でしようか、精神障害者の総数は間違いなく増えています。典型は「自殺者の増加」。日本は今や年間3万人以上が自殺する異常な国になりました。自殺される方の大半は、うつ病かそれに近い症状を示しておられます。鈴木 そんな現代社会において何が必要か？私は精神障害者が安心して住める街にならなければ、障害者問題は解決しないと思うのです。精神障害者に対して、ま



有田 八郎さん

障害者の医療と福祉であるべきなのに、吹田は特に医療面が貧困だと感じます

だまだ偏見や差別が存在する。例えば「精神障害者が盲腸になったとき、手術してくれる病院がなかなかない」のです。病院スタッフが「うちでは受け入れられません」と断る場合がある。

小川 私の患者さんで10年以上付き合っている方が、実は痔な手術を依頼した時、警戒されてなかなか手術の受け入れが進まない。私が外科の先生、看護婦長と会って、何とか入院にこぎつけました。いざ入院したら何の問題も起こらない。手術後「いい患者さんです」(笑)との反応が。こうした精神障害者に対する差別・偏見は厳然と残っていると感じますね。

鈴木 障害者にとって医療の問題は深刻です。さつき作業所に

市内4カ所、280名が通うさつき障害者作業所



障害者の緊急診察を市民病院は代行すべき

鈴木 障害者にとっては命に関わる問題ですが、「金がないから通所する仲間のうちほぼ9割が

切り捨てる」では、「殺人行為」ではないですか？

さつき福祉会では民間のK病院に夜の緊急診察をお願いして来ましたが、K病院も採算が合わないのか、障害者の緊急診察を行わなくなりました。こんな時市民病院が代行してくれれば助かるのですが…。市は障害者福祉計画を持っているはずなのに、そこで議論されているのは

予算と費用対効果、つまり数字だけで、実際のニーズに込んでいるとは言い難いですね。有田 吹田市は現状を把握していないのでは？例えば市のホームヘルパーたちが事例集を作った。家の中に閉じ込められている障害者に粘り強く訪問して、ケアや関係機関につなぐ対応をすすめた実践記録なんです。ところが吹田市は市のヘルパーを削減しようとしています。「予算がないから」と。つまり行政が障害者の実態をつかむ努力をすることで、ヘルパーという大事な仕事を切り捨てようとしているのです。平形 今の行政は予算で切っていく。精神障害者の福祉を向上させようと思えば、確かにある程度のお金はかかります。しか

し市が警戒するほどのお金が必要でしようか？精神障害者にとって大切なことは「人と人との関係を取り戻すこと」です。精神病になつて本人はもろろん、家族全体が社会から孤立していく。そんな時少しだけ行政から手を差し伸べてあげれば、仲間と一緒に人生を取り戻すことができ

るので。例えば将棋の好きな人が地域でお年寄りと一緒に楽しめる場所があれば…。精神障害者は、自分のことを卑下して考えがちです。ちょっとした趣味でも声かけでもいい。人と人とのつながりを復活させるためのきつかけや場所作りを行政が行ってもそれほど予算は使わないはず

です。この程度の予算は不要不急のハコモノ作りをやめれば十分捻出できると思いますが。

阪神大震災の教訓、肢体不自由者はトイレ使えず

鈴木 私たちは阪神大震災の教訓を学ばねばなりません。あの

時障害者はどうなったか？肢体不自由者は避難所でトイレが使えず大変な目にあった。精神障害者は大勢の避難者でこつた返す小学校の体育館に行けなかった。それで、つぶれかけた家で暮らしていたのです。今、吹田の地域を見回してみても、障害者が安心して避難できる場所はあるのでしょうか？

有田 そんなことを含め、普段から障害者の運動団体と行政がもっとじっくり話し合うべきなのです。「障害者の医療と福祉を進める会」が昨年に2回ほど市長に面談を申し込んだけれど、市長は会ってくれなかったとか。

鈴木 今年になってやっと会ってもらえました。榎原市長時代は「何でも言うてや。その代わり出来ないことは出来ないと言うて」という対応だった。岸田市長はこまめに障害者の作業所を訪問して話を聞いてくれた。今は？訪問して来られても、プレゼ



鈴木 英夫さん

中途障害者、知的・身体障害者などの通所施設の定員が足りないというのが実態

障害者の働く場所はまだまだ不足